

採択される論文を書くための リサーチデザイン

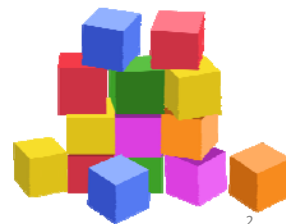
井澤修平

労働安全衛生総合研究所



今日お話しすること

- 研究論文の出版に至るまでのプロセス
- 採択される論文とは？
(論文を審査する側から)



研究論文の出版に至るまでのプロセス

Int.J. Behav. Med.
DOI 10.1007/s12529-016-9557-8



Stress Underestimation and Mental Health Outcomes in Male Japanese Workers: a 1-Year Prospective Study

Shuhei Izawa¹ · Nanako Nakamura-Taira² · Kosuke Chris Yamada³

© International Society of Behavioral Medicine 2016

Abstract

Purpose Being appropriately aware of the extent of stress experienced in daily life is essential in motivating stress management behaviours. Excessive stress underestimation obstructs this process, which is expected to exert adverse effects on health. We prospectively examined associations between stress underestimation and mental health outcomes in Japanese workers.

Methods Web-based surveys were conducted twice with an interval of 1 year on 2359 Japanese male workers.

Keywords Stress underestimation · Depression · Sickness absence · Antidepressants

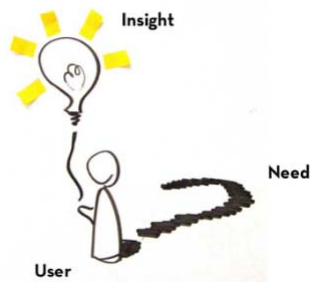
Introduction

During the past decade, epidemiological research has demonstrated that psychosocial stress at the workplace led to adverse health outcomes such as cardiovascular disease and depressive disorders [1–3]. Furthermore, individual differences in stress

3

研究の概要

- ストレスを過小に評価する労働者は、長期的に観察するとメンタルヘルスを悪化させやすいのではないかと？

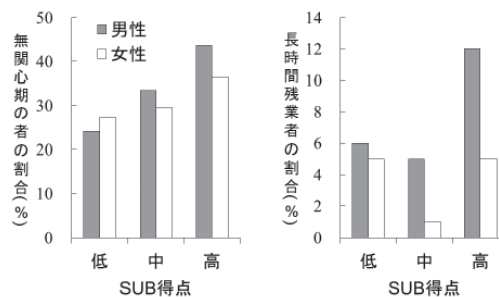


4

ストレスの過小評価？

- ストレスの存在や影響性を低く見積もる傾向（ストレスはない、問題ない、考えない方がよい、当たり前など）
- この傾向が高い人は、ストレスに対するセルフケアをとらないため、将来的に疾患のリスクが高い？

- 井澤他（2013）
 - 4下位尺度12項目の尺度を作成し、妥当性も検証。



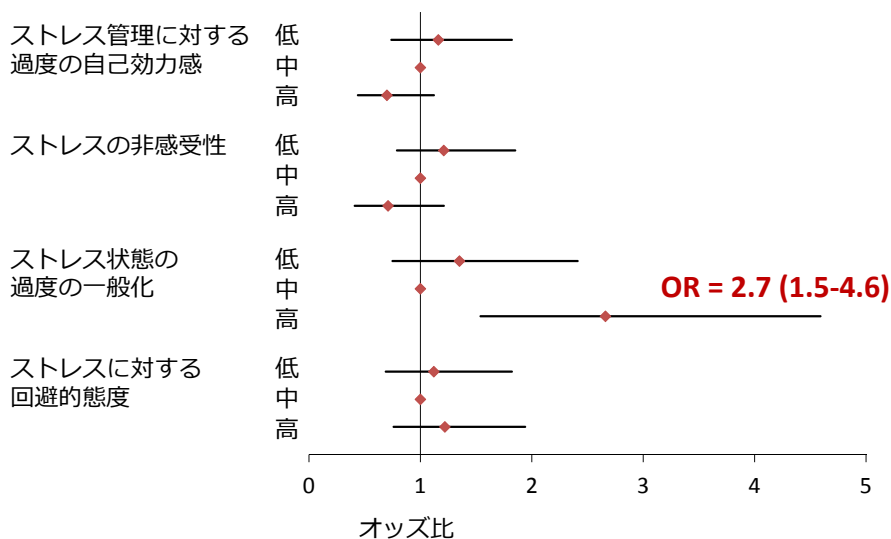
井澤他、2013、心理学研究

研究の概要

- ストレスを過小に評価する労働者は、長期的に観察するとメンタルヘルスを悪化させやすいのではないかと？
- ✓ 2,359名の男性労働者を対象とした1年間の追跡調査（ウェブ調査）。
- ✓ 調査項目として、ストレスの過小評価、抑うつ症状（K6）、疾病休業、抗うつ薬の服用など。
- ✓ ストレスの過小評価の高群は、1年後の抑うつ症状（K6の13点以上）や抗うつ薬の利用の発生が多いことが示された。
(疾病休業では差は認められなかった。)

6

研究の概要(結果の一部、抑うつ症状)



※ 年齢、ベースラインのK6得点、婚姻、収入、職種、喫煙、飲酒、運動を調整済み

7

出版に至るまでのプロセス

- アウトカム・サンプル数の決定
- 研究費
- その他の測定項目 (交絡要因含む)
- 投稿から採択に至るまでの流れ



8

アウトカム・サンプル数の決定

■ 主要アウトカム

- 新規の抑うつ症状の発生（K6の13点以上あるいは未満）

■ 副次的アウトカム

- 新規の疾病休業（あり、なし）
- （新規の抗うつ薬の服用（あり、なし））

9

疾病休業

- 病気や体調不良によって過去1年間で合計7日以上休んだ者の割合、男性8.6～9.5%、女性8.2%～12.9%（Ishizaki et al., 2006）
- 一週間以上連続で休んだ者 3%（Muto et al., 1999）
- 以前の発表者らの調査では、1週間以上の疾病休業8.4%

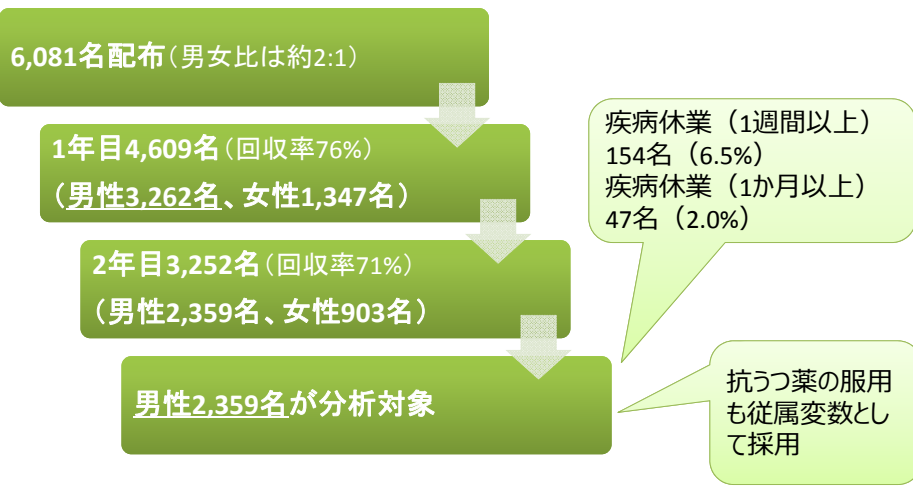
	低群	中群	高群	合計
健康	385	385	358	1128
疾病休業	15	15	42	72
合計	400	400	400	1200

- 1,200名中で、1年間に新規に6%の疾病休業が発生すると仮定し、かつ、高群は中群よりも2～3倍、その率が高いと仮定すると、 $\chi^2 = 13.8$ ($p < .01$)
- 2年目の回収率（40%？）も考えると1年目に3,000名以上は確保したい。

10

実際の調査

- 20～59歳の南関東に在住の労働者を就業構造基本調査における産業分類の構造比率に基づき抽出。



研究費の調達

- 研究費の申請
 - 以前より、中村、山田、井澤 (+α) で研究を継続しており、この研究のタイミングで複数の研究費を申請。
 - 全労済協会の助成金 → ×
 - ヘルスサイエンスセンター助成金 → ○ (H24、代表・中村)
 - 基盤研究C → ○ (H24～H27、代表・中村)
- 実際の費用
 - 調査1年目142万、2年目98万円
- 調査会社との交渉
 - サンプル数 (アウトカム)、抽出方法、予算の兼ね合い
 - 複数の調査会社からの見積もり、値切り交渉

それ以外の測定項目(交絡要因含む)

- ✓ 年齢、婚姻状況、睡眠薬、睡眠時間、生活習慣（喫煙、飲酒、運動）、疾病既往歴、身長・体重、学歴、年収
 - ✓ 職種、職位、業種、在籍年数、事業所規模、労働時間、シフト形態
 - ✓ ストレスマネジメントのステージ、セルフケアやその促進に関する項目、メンタルヘルス・リテラシーの項目
 - ✓ 職業性ストレス（ソーシャルサポート含む）、ライフイベント、コーピング、社会的望ましさ、仕事パフォーマンス
- 合計で約100問

13

投稿から採択に至るまでの流れ

- 2012.11 一回目調査
- 2013.11 二回目調査
- 2014.11 ポスター発表
- 2015.5 執筆開始（2015.8 英文校閲）
- 2015.9.14 Scand J Work Environ Health (IF: 3.793)に投稿
- 2015.9.22 Rejectのメール
- 2015.10.20 Int J Behav Medに投稿 (IF: 1.872)
- 2015.11.22 Major Revisionのメール
- 2016.1.26 Int J Behav Medに再投稿
- 2016.2.13 Minor Revision→再投稿
- 2016.3.5 Acceptのメール

他の選択肢：
Health Psychol
J Occup Health Psychol

14

投稿から採択に至るまでの流れ

■ 修正要求の内容

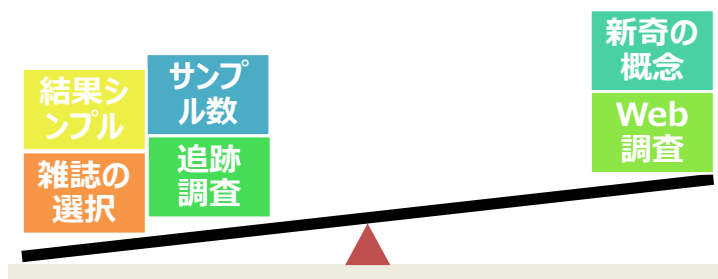
- 過小評価の理論的正当性とストレスへの曝露の問題
 - 尺度項目を過小評価とみなした具体的な理由、過去の理論、先行研究を理由としてあげる。
 - ストレスとの交互作用がないことをデータで示す。
- 抑うつ症状と抗うつ薬の重なり
 - 今回の研究データを示す（服薬している人の割合など）。
 - 先行研究のデータを示す（日本ではうつになっても、病院に行く人は少ない）。
- 疾病休業の測定について
 - 先行研究の疾病休業のデータを示す。
- 交絡要因
 - 生活習慣（喫煙、飲酒、運動）を含め、労働時間を除外。
- その他（脱落率、論の流れ、疾病休業の結果の解釈など）

15

研究論文の出版に至るまでのプロセス

有利だった要因

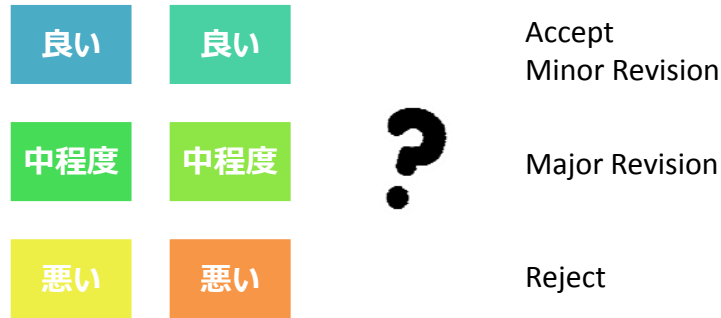
不利だった要因



16

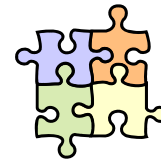
採択される論文とは？(論文を審査する側から)

研究デザイン (オリジナリティ含む) 論文の書き方



論文の受理されやすさは、論文の書き方によっても多少はカバーできるが、研究の計画段階でおおよそ決定される。

採択される論文(私見)



- オリジナリティのある研究
 - 新奇の、あるいは他分野の指標や研究手法
 - 思わぬところでの有意差
- 研究デザインがしっかりとしている研究
 - Nが多い
 - 因果関係に迫っている
- 少ないNで無理やり有意差を出す研究をジャーナルは求めている。
- 1人、あるいは1研究室で、このような条件を満たした研究を行うのは難しい。

日本の論文を審査していて目につく問題

- サンプル数
- 交絡要因・除外基準
- 指標の選択
- オリジナリティ

